

令和３年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立清江小学校

令和４年２月

大阪市立清江小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 友だちと楽しく学校生活を送っている児童が多い。
- 自尊感情を高め、自己有用感を感じられる場面を、学校生活全般の中や体験活動などで増やしていく。
- 学習内容の基礎基本の定着に課題を持つ児童がおり学力の向上を図るとともに、課題に対する意見や考えを交流し、協働して解決をしようとする態度を育てる。
- 運動を苦手とする児童と得意とする児童の二極化などがみられるので、運動を苦手とする児童を減らしたり健康教育を進めたりする。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 道徳心・社会性を育成し、友だちと協働する態度を育てる。令和3年度の全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的回答を大阪市以上、学校教育に関するアンケートで行事に関する項目の肯定的回答の児童・保護者の割合を95%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 学習意欲を高め、基礎基本の定着など学力の向上を図る。令和3年度の学力経年調査で国語の総合指数の学校合計を大阪市以上にする。令和3年度の国語評価テストで60%以下の割合を7.8%以下にする。
- 健康に過ごす態度を育てるとともに、体力の向上を図る。令和3年度の学校生活アンケートで「ぶくぶくうがい」に関する項目で肯定的回答を児童保護者とも70%以上にする。また、新体力テストで、総合評価D・Eの割合の経年変化を向上させ、「全国体力・運動能力、習慣等調査」でD・Eの割合を男女とも30%以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を83%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ① 全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的回答を77%以上にする。学校教育に関するアンケートで行事や体験活動の項目について、肯定的回答をする児童・保護者の割合を91%以上にする。
- ② 自ら判断し身を守る避難訓練や交通安全指導などの安全教育を学期ごとに行う。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- ① 学力経年調査で各学年の標準化得点を昨年より向上させる。学校教育に関するアンケートで「学習内容の習得」の項目で、肯定的回答をする児童・保護者の割合を87%以上にする。
- ② 学校教育に関するアンケートで、「ぶくぶくうがいをしていますか」の項目について、肯定的回答をする児童・保護者の割合を84%以上にする。
- ③ 「全国体力・運動能力、習慣等調査」での体力合計点について、男子50.9ポイント、女子52.9ポイントを上回る。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・ 全市共通目標は、各項目とも達成できている。また、「自分にはよいところがある」や「行事」についての肯定的な回答は、いずれも目標を下回っていた。これらは、2年間に及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大の影響が多大であると思われる。日々子どもたちのようすは、明るくのびのびと学校生活を送っている。今後、より自己肯定感を高めることができる取り組みを工夫していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・ 全市共通目標に関しては、「正答率」等については目標を下回っているが、「話し合う活動」については、肯定的な回答が前年度を上回っており目標を達成できた。
- ・ 学校の年度目標については、「学習内容の習得」の肯定的回答が90%以上であり達成できたといえる。また、「ぶくぶくうがい」についても定着している。体力に関しては、指標を上回ることができなかったが、これも新型コロナウイルスの感染拡大長期蔓延が関与していると言わざるを得ない。

(様式2)

大阪市立清江小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を83%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的回答を77%以上にする。学校教育に関するアンケートで行事や体験活動の項目について、肯定的回答をする児童・保護者の割合を91%以上にする。</p> <p>② 自ら判断し身を守る避難訓練や交通安全指導などの安全教育を学期ごとに行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>創立20周年を祝う活動を通して、子どもたちに学校を大切にしたい気持ちなどを表す道徳性を育成する。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 各学級や各学年、全校などで、創立20周年をお祝いする活動を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>自ら判断し行動するための安全教育を実施し、安全に身を守る態度を育てる。(カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 避難訓練を学期ごとに行い、有事を想定した引き渡し訓練を行う。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○全市共通の目標については、各項目とも達成することができた。</p> <p>○学校園の年度目標については、全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」の肯定的回答は、69.6%であった。この結果は、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発出され、4月末から学校園の取り扱いが急遽変更されることになってしまい、全国学力・学習状況調査の時期と重なってしまったことで満足な結果を得るこ</p>	

とができなかったと考えられる。

また、学校教育に関するアンケートで行事や体験活動の項目について、肯定的回答をする児童は 91.4%、保護者は 86.6%であった。これは、新型コロナウイルスの感染拡大により学校行事の中止などが影響されたと考えられる。

【取組内容】について

- ① コロナ渦で規模を縮小した形式での実施だったが、創立 20 周年をお祝いする活動を行い、今後も学校を大切にしようという気持ちを児童にもたせることができた。
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大により一部できなかった避難訓練もあったが、安全に避難する意識を高めることができた。

次年度への改善点

- ① 自己肯定感を高めるためには、自分のよいところや友だちのよいところを見つけ、発表する機会を設けるなど、学校全体で考えていく必要がある。
- ② 今年度の反省をもとに十分に計画を練り、様々な有事を想定した上で避難訓練を実施できるようにする必要がある。

(様式2)

大阪市立清江小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を前年度より向上させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 学力経年調査で各学年の標準化得点を昨年より向上させる。学校教育に関するアンケートで「学習内容の習得」の項目で、肯定的回答をする児童・保護者の割合を87%以上にする。</p> <p>② 学校教育に関するアンケートで、「ぶくぶくうがいをしていますか」の項目について、肯定的回答をする児童・保護者の割合を84%以上にする。</p> <p>③ 「全国体力・運動能力、習慣等調査」での体力合計点について、男子50.9ポイント、女子52.9ポイントを上回る。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>図工科を中心とした授業研究を実施し、学習意欲を高める指導力の向上に取り組む。 (マネジメント改革関連)</p> <p>指標 授業指導に関わる教員は、年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>読書環境の充実と読書習慣の定着を進め、言語力向上を図る。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>指標 読書ノートを活用し読書冊数の個人目標を達成する児童の割合を前年度より増やし、読書への意欲を高める。</p>	B

<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 強化週間を定期的に設け、「ぶくぶくうがい」についての習慣化をさらに図る。 (カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 強化週間を学期に1回実施するとともに、学校全体で活動内容を工夫し習慣化を図る。</p>	
<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 運動に親しむ態度を育てるとともに体力の向上を図る。(カリキュラム改革関連)</p>	B
<p>指標 「がんばりカード」を作成し、それをパソコンの共有フォルダに保存し、いつでも活用できるようにする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全市共通の目標については、達成できているものとそうでないものがあるが、コロナ禍での学力調査であり、達成が難しいところもあった。 ○学校園の年度目標については、「学習内容の習得」の項目で、児童・保護者共 90%以上の肯定的回答があり、児童は学校での学習内容を概ね理解できていると考えられる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等における体力合計点については、男子 51.25 ポイント 女子 51.02 ポイントであった。コロナ禍でマスクの着用や運動によっては制限がかかる中であったので、大きく落ち込んだ数値ではないものの、目標達成には至らなかった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①計画に基づき授業研究を実施することができた。授業後の研究討議会では、講師先生を招聘し、発問や作品の評価についての指導を受け、研究を進めることができた。また、図工室の整備も行い、学習環境を整えることができた。 ②読書ノートの活用や読書週間の設定・実施により子ども達の読書意欲の向上に努めた。また、図書委員会による読み聞かせや図書館クイズを行い、本に親しむ機会を設けることができた。また、各教室に本箱を設置し、読書環境を整えることができた。 ③「ぶくぶくうがいをしていますか」の項目については、児童 80%、保護者 74%が肯定的回答であった。目標は 84%以上だったので達成はしていないものの、強化週間や日々の放送での呼びかけにより、ぶくぶくうがいの習慣は根付いてきていると考えられる。 ④「運動に親しむ態度を育てるとともに体力の向上を図る」では、がんばりカードの活用や運動委員会による遊びの催し等を通して、個々の目標に向かって取り組む意識が高まった。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ①学年部会や研究推進委員会等、組織として研究を進めていく。 ②読書カードの活用や読書タイムの実施等、学校全体で共通理解のもと取り組みを進めていく。また、読書活動が活発になるような図書委員会の取り組みを進めていく。 ③ぶくぶくうがいの習慣が根付いてきていることや、コロナ禍ということから、次年度は目標を変えて設定することが望ましい。また、学校保健委員会と共通の目標であることが望ましい。 ④コロナ禍でも取り組めるような学校全体での活動を考えていく。(ストレッチ、ラジオ体操、なわとび週間等) 	